

奉納絵馬についての中間報告

千賀 基央

絵馬の本体は、奉納先である貴僧坊水神社が所在する土地の「木」を利用して制作する。

以下の3つをキーワードとして構想を進めている。

- ① 素材（土地の材）
- ② 額装（絵馬の構成）
- ③ 結界（カミの表現）

① 素材

どのような素材があるか、2022年8月28日に現地を取材した。
事前に確認した現地情報の資料から、「立ち枯れの木」を素材の候補とし、
林業が行われていた土地では、立ち枯れのスギやヒノキを確認した。
これらは腐食がかなり進行しているが、素材の候補として検討する。



○参考1 素材を活かす

立ち枯れの木をオブジェとして活かした事例を挙げる。

支障木として上部を伐採されたケヤキが3本残されており、その周りにテーブルとベンチを制作した。

1本のケヤキは枯れてしまっていたので、皮を剥がして表面を磨き、オブジェとした。

自然の造形美をそのまま活かすことが出来た例として参考にする。



皮が剥がれ、立ち枯れしているケヤキ



皮を剥ぎ、磨き、塗装した



同一の素材（ケヤキ）で制作する造形を対比する。

中央のオブジェは、素材をそのまま活かした造形である。それを囲うテーブルは素材を成形して加工した造形である。

② 額装

本作品の絵馬は、額装することを想定している。

作品のイメージやスケールを確認しながら、オリジナルな額装を提案できないか検討する。

○参考2 丁番

複数枚で構成し、屏風のように折りたためるようにする場合、丁番を用いることになる。

キャンバスを太鼓張りとする場合は、接合部を紙丁番とするか、

また、フレームを設ける場合は、紐丁番とするか。

紐丁番を用いた額装を事例として挙げる。



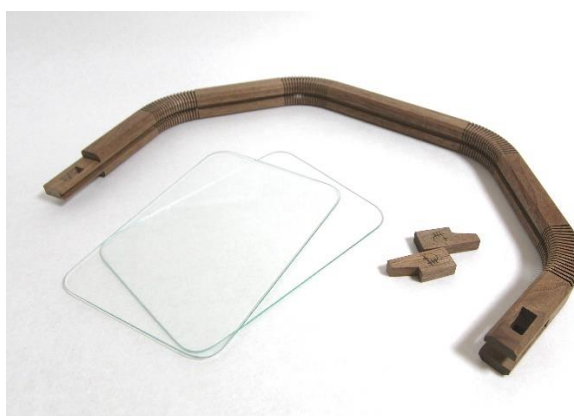
革紐を丁番として用いた

○参考3 特徴のある額装

棒材1本に切り込みをいれ、曲げて形成する額。



自立する額



構成部材

③ 結界

鳥居、しめ縄、幕などを用いて、境界・結界を示すことで空間をつくり「カミ」の存在を意識することができる。

結界の要素を、額装の構成や、展示方法などに、取り込むかを検討する。

○ 参考4 鳥居と社



現地調査の報告と、参考になりそうな過去の実績を挙げて、中間報告とする。